

化学基礎論 C

第3回

1-7 シュレディンガー方程式

Schrödinger equation

量子力学の基本方程式

$$\hat{H}\Psi = E\Psi$$

Ψ : 波動関数

位置 $r = (x, y, z)$ の関数 $\Psi(r)$

\hat{H} : ハミルトニアン (演算子)

考えられている粒子がどのような場におかれているかの設定

E : 粒子のエネルギー

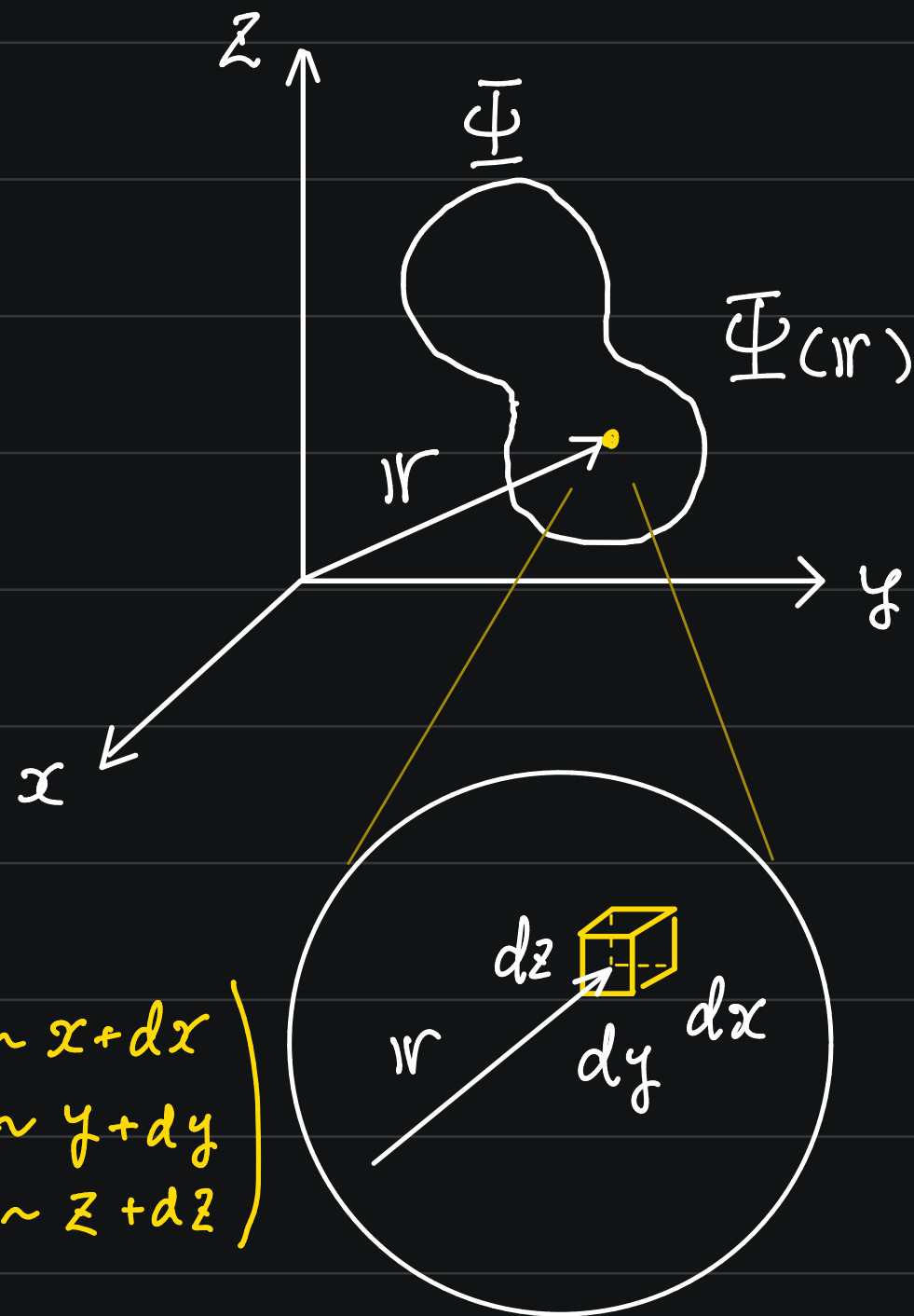
$$\hat{H}\Psi(r) = E\Psi(r) \quad (\text{時間と含まない方程式
定常状態を記述する})$$

「シュレディンガー方程式を解く」とは？

\hat{H} が あたえられたとき、この方程式を満たす
関数 $\Psi(r)$ と 定数 E を見つける」

「固有関数」 「固有値」 「固有値問題を解く」

波動関数とは？



$|\Psi(r)|^2$: 位置 r での粒子の
存在確率密度

この領域に粒子を見つける
確率は

$$|\Psi(r)|^2 \cdot dx \cdot dy \cdot dz$$

確率密度 \times 体積

具体的な問題で考える

箱の中の粒子 (一次元)



粒子を $0 \leq x \leq L$ の領域にとじこめる

$$V(x) = \begin{cases} 0 & (0 \leq x \leq L) \\ \infty & (x < 0, L < x) \end{cases}$$

ハミルトニアンは

$$\hat{\mathcal{H}} = \underbrace{-\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2}}_{\text{運動エネルギー}} + \underbrace{V(x)}_{\text{ポテンシャルエネルギー}}$$

運動エネルギー
を求める演算子

ポテンシャルエネルギー

シュレディンガー方程式 $\hat{\mathcal{H}}\Psi = E\Psi$ は、

$0 \leq x \leq L$ では $V(x) = 0$ より

$$-\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2 \bar{\Psi}(x)}{dx^2} = E \bar{\Psi}(x)$$

これを満たす $\bar{\Psi}(x)$ は $\sin(ax), \cos(ax)$ など。

両端 ($x=0, L$) で $\Psi=0$ となる条件 (「境界条件」) から
(波動関数が連続である)



$$\Psi(x) = C \sin\left(\frac{n\pi x}{L}\right) \quad n=1, 2, 3, \dots \text{ 整数}$$

C は 0 以外の実数

粒子の存在確率は全領域で積分すれば 1 だから

$$\int_0^L |\Psi(x)|^2 dx = 1$$

これより $C = \pm \sqrt{\frac{2}{L}}$ と決められる \pm はどちらでも良い
↑ 「規格化定数」と呼ばれる。

よって波動関数は

$$\Psi(x) = \pm \sqrt{\frac{2}{L}} \sin\left(\frac{n\pi x}{L}\right), \quad n=1, 2, 3, \dots$$

つぎにこれらの波動関数に対応するエネルギーを求める

$$\hat{H}\Psi(x) = -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2} \left[\sqrt{\frac{2}{L}} \sin\left(\frac{n\pi x}{L}\right) \right]$$

$$= + \underbrace{\frac{\hbar^2}{2m} \left(\frac{n\pi}{L}\right)^2}_E \underbrace{\sqrt{\frac{2}{L}} \sin\left(\frac{n\pi x}{L}\right)}_{\Psi(x)}$$

$$\frac{\hbar^2 n^2 \pi^2}{(2\pi)^2 2m L^2}$$

よってエネルギーは

$$E = \frac{n^2 \hbar^2}{8mL^2} \quad n=1, 2, 3, \dots$$

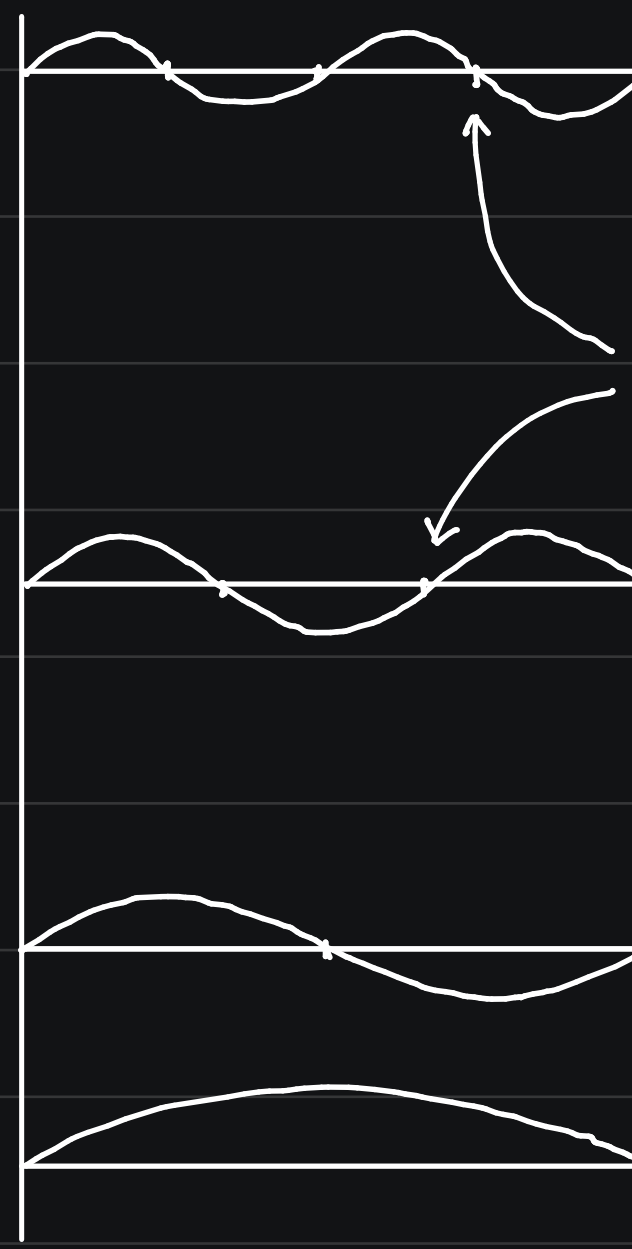
エネルギー準位

$$n=4 \quad \text{————} \quad E = \frac{16 h^2}{8 m L^2}$$

$$n=3 \quad \text{————} \quad E = \frac{9 h^2}{8 m L^2}$$

$$n=2 \quad \text{————} \quad E = \frac{4 h^2}{8 m L^2}$$

$$E=0 \quad n=1 \quad \text{————} \quad E = \frac{h^2}{8 m L^2}$$



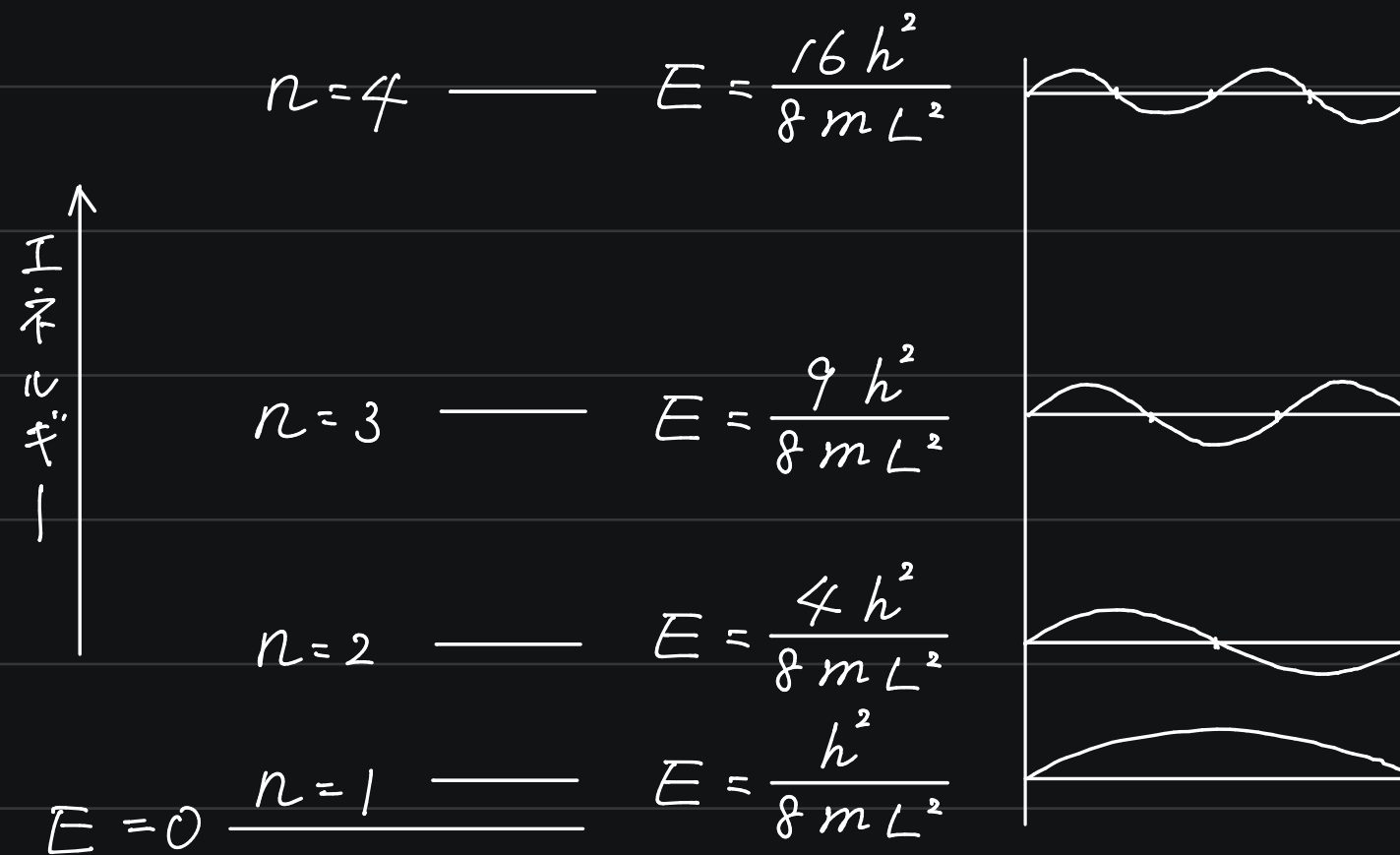
$\Psi=0$ になる点

= 「節」

node

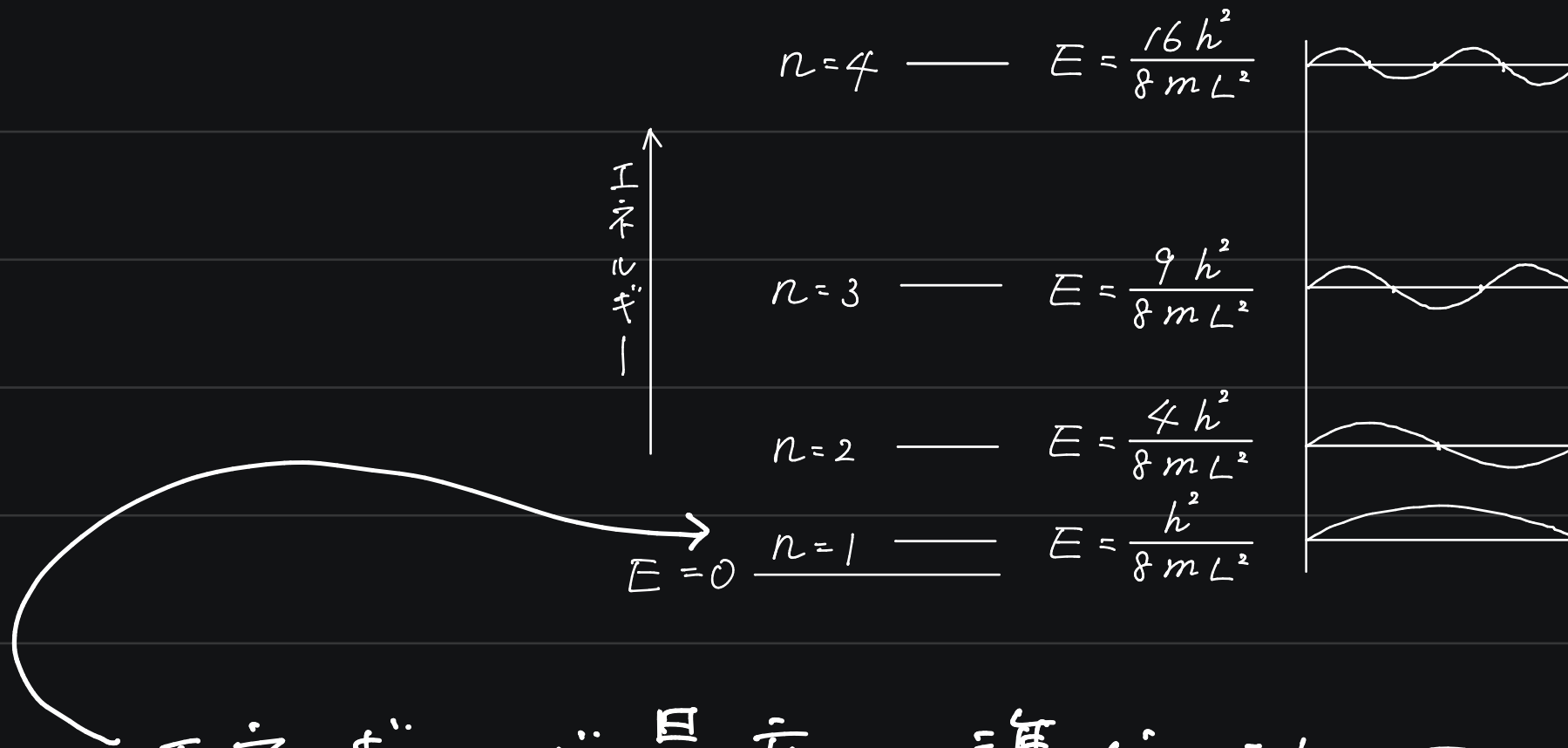
「せつ」

「3.L」



どびとびのエネルギー準位をとる 「エネルギーの量子化」

$n =$ 「量子数」 状態を指定するための「番号」



エネルギーが最低の準位でも $E=0$ にならない
「ゼロ点エネルギー」



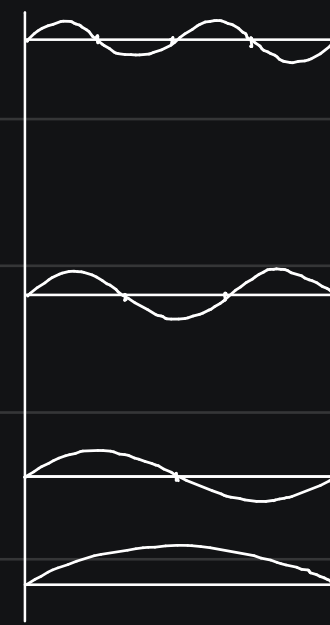
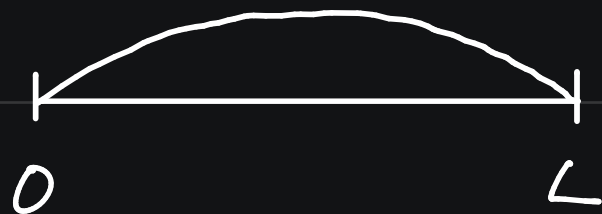
運動エネルギー $\neq 0$ つまり静止していない

$$\left(\Delta x \approx L \quad \Delta p \geq \frac{\hbar}{\Delta x} = \frac{\hbar}{L} \quad \text{ゼロにならない} \right)$$

Ψ と $|\Psi|^2$

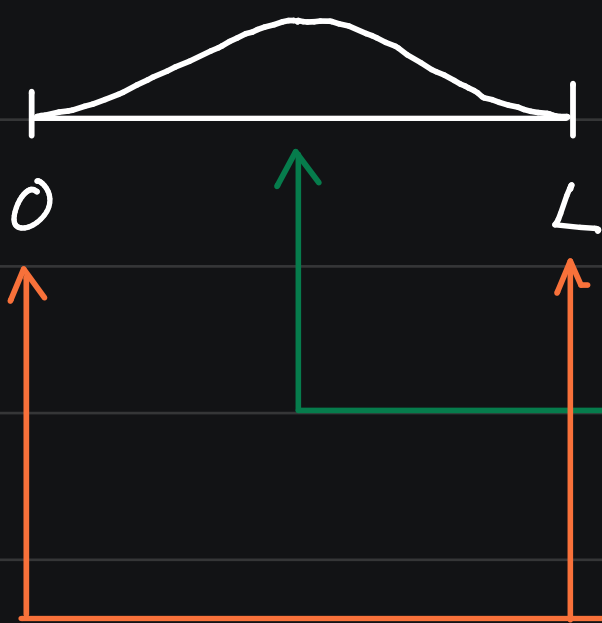
$n=1$ のとき

Ψ



$n=1$

$|\Psi|^2$



存在確率密度が高い

∴

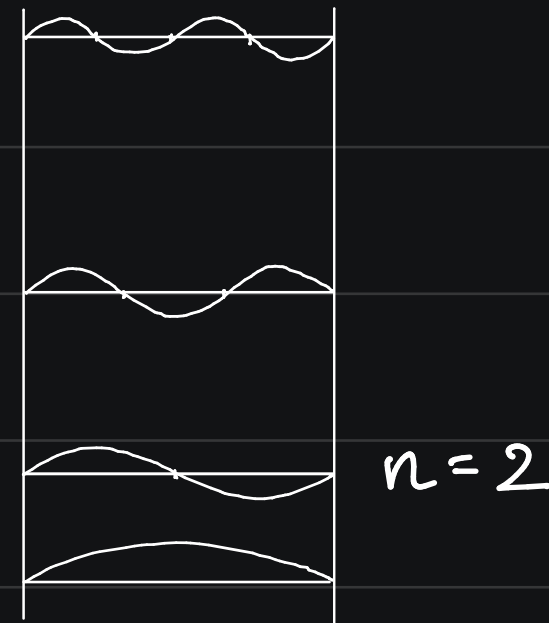
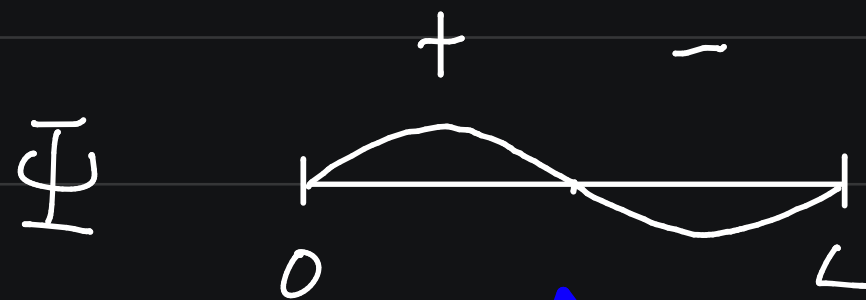
ゼロ

最もエネルギーが低い状態

「基底状態」

Ψ と $|\Psi|^2$

$n=2$ のとき



即 $\Psi = 0, |\Psi|^2 = 0$



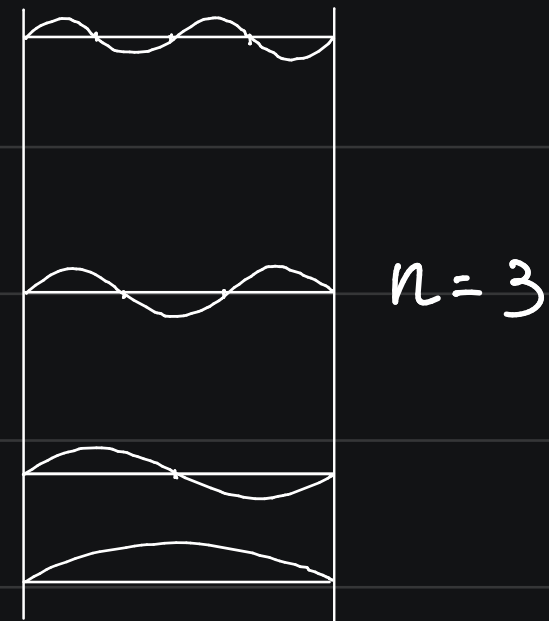
存在確率密度が高い

「第一励起状態」

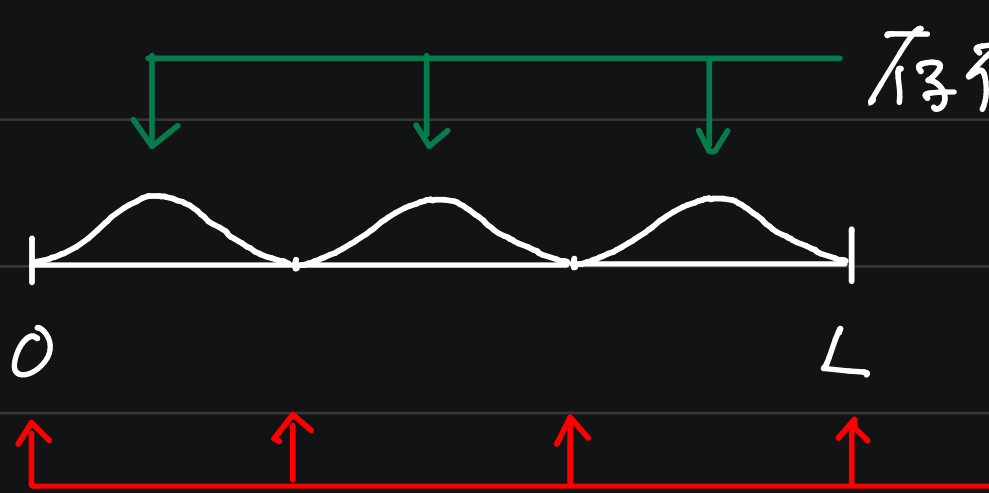
Ψ と $|\Psi|^2$

$n=3$ のとき

Ψ



$|\Psi|^2$



存在確率密度が高い

ゼロ

「第二励起状態」

クイズ

1つの電子が長さ L の一次元の箱の中にいる。
 $n=2$ の準位にある電子が $n=1$ に落ちるとき、
放出される光の波長はいくらか？

$n=3$ —————

$n=2$ —————

$n=1$ —————



$$\begin{aligned} \text{放出されるエネルギー} &= E_{(n=2)} - E_{(n=1)} \\ &= \frac{4h^2}{8m_e L^2} - \frac{h^2}{8m_e L^2} = \frac{3h^2}{8m_e L^2} \end{aligned}$$

これが $h\nu$ に等しい

$$\therefore \nu = \frac{3h}{8m_e L^2}$$

波長 λ は $\lambda\nu = c$ より

$$\lambda = \frac{8m_e c}{3h} L^2$$

$$\lambda = \frac{8 m_e c}{3 h} L^2$$

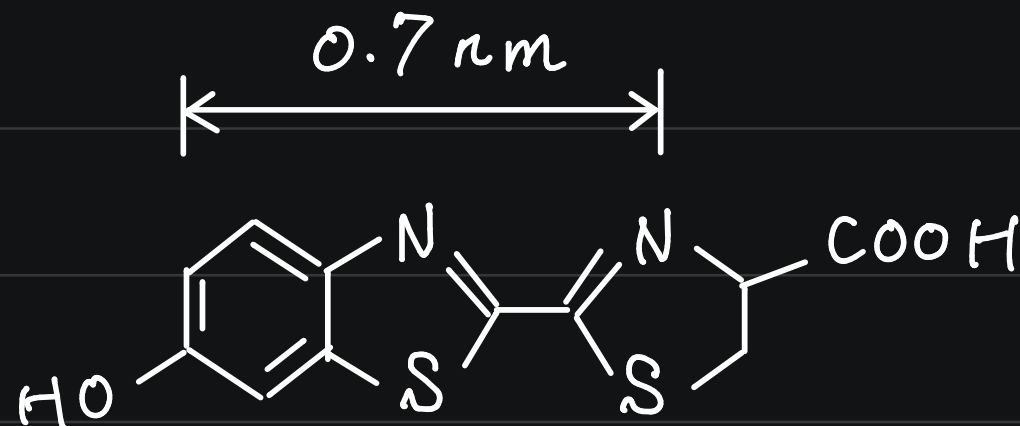
$$= \frac{8 \cdot 9.11 \times 10^{-31} \text{ kg} \cdot 3.00 \times 10^8 \text{ m s}^{-1}}{3 \cdot 6.63 \times 10^{-34} \text{ J s}} \cdot L^2$$

$$= 1.10 \times 10^{12} \text{ m}^{-1} \cdot L^2 \quad \pi \text{ 共役} \approx \text{一次元の箱}$$

$$L = 0.700 \text{ nm} \rightarrow \lambda = 5.39 \times 10^{-7} \text{ m} = 539 \text{ nm} \text{ 緑色}$$

D-ルシフェリン

ホタルの発光



560 nm

黄緑色

D-Luciferin
教科書 p.204

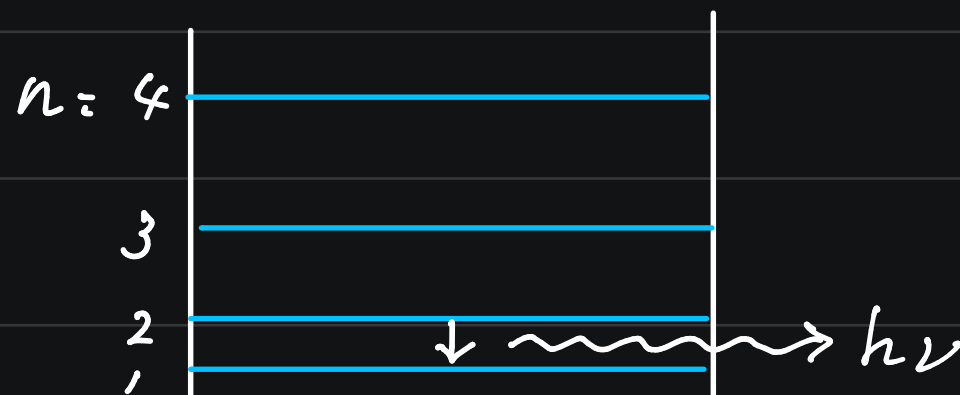
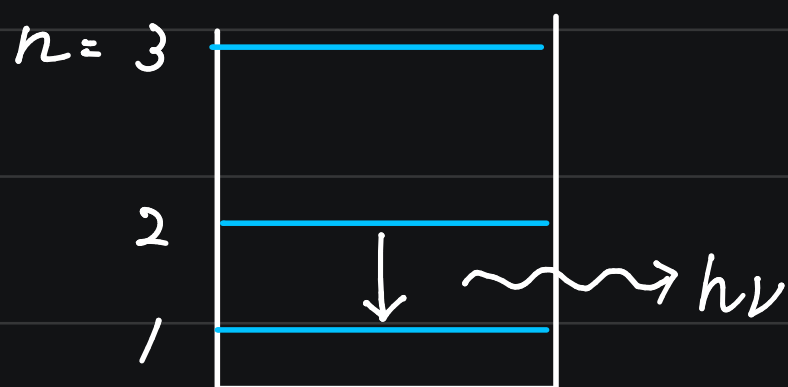
箱の大きさが変わるとどうなるか？

$$L = 0.600 \text{ nm} \rightarrow \lambda = 3.96 \times 10^{-7} \text{ m} = 396 \text{ nm} \text{ 紫外}$$

$$L = 0.700 \text{ nm} \rightarrow \lambda = 5.39 \times 10^{-7} \text{ m} = 539 \text{ nm} \text{ 緑色}$$

$$L = 0.800 \text{ nm} \rightarrow \lambda = 7.04 \times 10^{-7} \text{ m} = 704 \text{ nm} \text{ 赤色}$$

箱が大きくなるほど状態間のエネルギー差が小さくなる
(密になり)
→ 発光の波長は長くなる



疑問

波動関数 = 存在確率の波.

波ならば 振動 し2. 子の2は?

時間を含む波動関数

$$\Phi(r, t) = \Psi(r) \cdot e^{-i \frac{E}{\hbar} t}$$

空間部分 · 時間部分



「(存在確率)^{1/2}の空間分布」

「(存在確率)^{1/2}の振動」

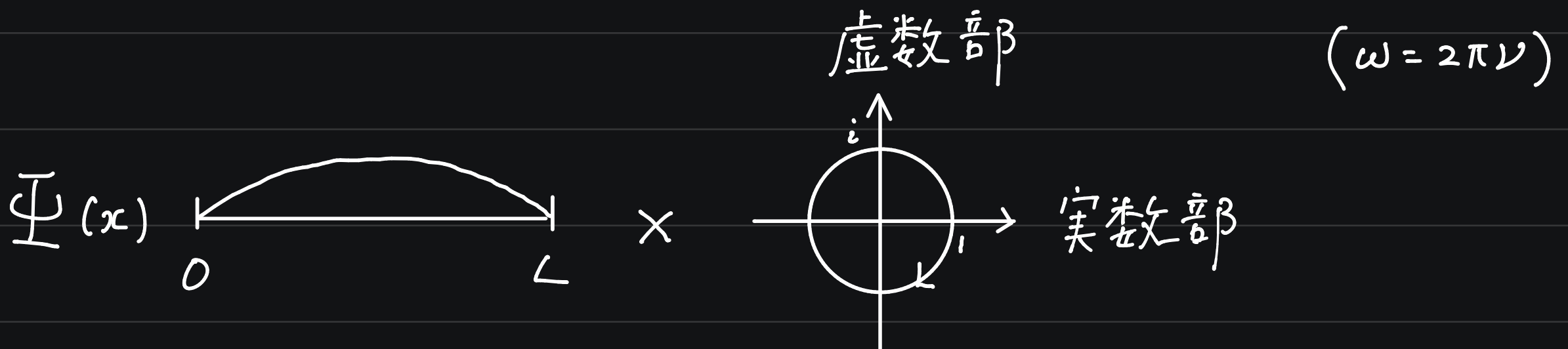
一次元の箱中の粒子の波動関数

$$\Psi(x) = \pm \sqrt{\frac{2}{L}} \sin\left(\frac{n\pi x}{L}\right) \quad E = \frac{n^2 h^2}{8mL^2} \quad n=1,2,3,\dots$$

$$\Phi(x,t) = \Psi(x) \cdot e^{-i\frac{E}{\hbar}t}$$

$$e^{-i\omega t} = \cos \omega t - i \sin \omega t$$

$\omega =$ 角振動数



各位置での「存在確率」 $^{\frac{1}{2}}$ が、角振動数 $\omega = \frac{E}{\hbar}$ で複素平面を振動している

宿題 1 教科書 p.79 ~ p.82 を読む。

2. 復習問題 1.8A, 1.8B を解く。
CLE に提出する。

時間を含む波動関数

$$\Phi(r, t) = \Psi(r) \cdot e^{-i \frac{E}{\hbar} t}$$

時間を含む Schrödinger 方程式

$$\hat{\mathcal{H}} \Phi(r, t) = i \hbar \frac{\partial}{\partial t} \Phi(r, t)$$

$$\begin{aligned} \hat{\mathcal{H}} \Psi(r) e^{-i \frac{E}{\hbar} t} &= i \hbar \frac{\partial}{\partial t} (\Psi(r) e^{-i \frac{E}{\hbar} t}) \\ &= i \hbar \Psi(r) \left(-i \frac{E}{\hbar} \right) e^{-i \frac{E}{\hbar} t} \\ &= E \Psi(r) e^{-i \frac{E}{\hbar} t} \end{aligned}$$

$$\hat{\mathcal{H}} \bar{\Psi}(r) e^{-i \frac{E}{\hbar} t} = E \bar{\Psi}(r) e^{-i \frac{E}{\hbar} t}$$

$$\hat{\mathcal{H}} \bar{\Psi}(r) = E \bar{\Psi}(r)$$

時間を含まない Schrödinger 方程式